

## 第1回総合計画審議会議事対応内容

No.	委員	発言要旨	対 応
	委員長	<p>委員皆様から「将来の稲敷はどうあって欲しいか」という話と、「短期的にはどういふことをしなくてはならないか」という話を伺い、それを計画作りに生かしていただきたい。</p> <p>事務局の説明を聞き、それに対する意見と併せて、それぞれの一言ずつお話し下さい。</p>	—
1	委員	<p>総合計画の策定にあたって、やはり質かなと思う。今までは量を求めて、人口対策などでも、数だけで色々と勝負していた。しかし、それは日本中でやっていることなので、<b>数よりは質で、質が良ければ結果的に分かってもらえる。</b></p> <p>また、短期的には、前例に捉われず、やるべきことを思い切ってやっていくというのが、今の時代を乗り越えるのに重要なことではないか。<b>新しいことをやるのには弊害があります。そういうことを乗り越えて、新しいことに突き進んでほしい</b>と思います。</p>	<p><b>P. 2 基本計画策定の視点</b></p> <p>今後のまちづくりを進めていくにあたって大切にすべき視点として、世代や働き方の違って、市民がそれぞれの暮らしや仕事の中で「幸福、豊かさ、満足、安心、安全」を実感できる<b>質の向上を重視した計画策定</b>に取り組むと記載。</p>
2	委員	<p>短期的には環境保全問題が最も重要だと考えます。効果検証でも<b>環境保全分野は見込みも含めて 50%という低い数字です。短期的に早期に対応しなくてはいけない事</b>と思います。</p> <p>また、将来的には人口減少問題、これが最も大切なものになってくる。全国的にも人口減少は進んでいるのが、その減少率をいかに抑えるかというのが大事だと思う。<b>鉄道の無い当市ですので、圏央道、PA、それから IC 周辺の開発を、計画的に進めてもらいたい。</b>それが人口減少に対しても効いてくると思う。前例に捉われないということも大事だと思う。</p>	<p>P. 97～第 3 章/政策 2 豊かな地域資源を次世代に継承しましょう！</p> <p><b>自然環境の保全・活用や循環型社会の構築</b>に関する目標指標を設定し、施策の実現に向けた取組を進めます。</p> <p>P. 18 重点プロジェクト 1【地域活性化プロジェクト】</p> <p>圏央道のポテンシャルを生かしたまちづくりの視点から、<b>圏央道の広域的な利便性を生かし、新たな産業の集積促進に重点的に</b>取り組みます。</p>
3	委員	<p><b>女性の意見の反映が少ない状況で、課長クラスに女性が 1 人もいない。</b>特に若ければ若いほど、すごくフレッシュな意見があり、女性の声が反映されることで、とてもきめ細やかな、さらなる施策の良さが出てくると感じている。</p>	<p>P. 135 第 5 章/政策 1 手をとりあって市民協働を進めましょう！</p> <p>施策 2 取組③「男女共同参画社会の形成」において、<b>女性が様々な分野で活躍できる社会づくり</b>に取り組みます。また、具体的な指標を設け、男女共同参画社会の形成を目指します。</p>

No.	委員	発言要旨	対 応
4	委員	<p>今住んでいる人達が前よりも住みにくくなってしまったと感じてしまっはいけないと思う。施策で言えば、<b>市民協働に対してかなり遅れが出ており、市民協働の浸透が進んでいない</b>と感じている。防災の観点からも、自助・共助・公助という考えが必要で、まとめる地域のリーダーが必要である。</p> <p>また、P28 の地区拠点施設、公民館の機能を生かした地域づくりでは、地区センターよりも、私は<b>公民館に地区センターの機能を置いてもらったほうが良い</b>と考えます。</p>	<p>P. 31 重点プロジェクト6【地域づくりプロジェクト】 <b>公民館を各地区を支援する拠点施設として位置づけ</b>、地区担当職員を配置し、地域課題を共有しながら地域づくりを行っていきます。</p>
5	委員	<p>SDGs は、2030 年、今から 11 年後をゴールとして、国連全体で全ての課題を解決していこうというゴールを持っている。この SDGs の 17 のゴールに 169 のターゲットがあり、ここに網羅している事項が殆ど当てはまると思う。<b>重点施策などを SDGs のテーマと照らし合わせるようにすれば、市がどこを目指していけば良いのかが見える。</b>こういった整理をしていただきたい。</p>	<p>P. 10 第 1 編(4)持続可能な社会の実現に向けた取組 本計画を推進することが、SDG s 達成にに寄与すると考えられるため、基本計画（政策別計画）の各章において、政策ごとに関連する <b>SDGs をアイコン</b>で示します。また、資料編として <b>SDGs の 17 の目標と施策の方向性の対応関係をマトリクス表</b>で示しました。</p>
6	委員	<p>効果検証で、子育て分野は 95%、学びの分野は 50%という高い数字だが、<b>出生率に至っては 1.43 から下がっている。今後、出生率が上がっていくのか疑問</b>な所がある。</p> <p>農業分野では、<b>先般の台風での災害対策で農業者に対し、アフターフォローを市ができれば、もっと安心して農業を続けていける</b>と思う。</p>	<p>P. 23 重点プロジェクト3【子育て応援プロジェクト】 幼児教育・保育環境整備、子育て支援を進め、目指す姿「稲敷市で子育てする世帯が増えています」を目指し、子ども達が健やかに生まれ・学び・育つまちづくりや、<b>子育て世帯への支援を重点的</b>に取り組みます。</p> <p>P. 19 重点プロジェクト1【地域づくりプロジェクト】 取組② 担い手不足の解消、自然環境への配慮、新たな技術の導入などを積極的に進め、<b>次世代に継承していける元気な農業環境づくりに重点的</b>に取り組みます。</p>
7	委員	<p>これまで<b>シティプロモーションの推進</b>を訴えてきた。大杉神社がロケ地であったり、<b>周知されていないのが少し残念だ</b>と感じる。国体が市内で開催され、市内からオリンピックも出ているので、是非スポーツのまちづくり、トランポリンのまちづくりを進めていただきたい。<b>トランポリンを中心としたまちづくりをしていけば、子育てや、移住、定住につながる</b>と思う。</p>	<p>P. 32 重点プロジェクト6【地域づくりプロジェクト】 取組② 市民と行政のパートナーシップの形成に取り組み、重点プロジェクトとして、<b>市の魅力を発掘し、市内外へ発信</b>して、市民の郷土愛を高め、多くの方が稲敷市とつながる仕組みづくり等、多様なシティプロモーションの推進に取り組みます。</p>

No.	委員	発言要旨	対 応
8	委員	<p>子どもたちが、稲敷の生まれ育ったところに感動するとか、喜びを感じるとか、そういったものがあってほしいと思う。市内の伝統的な文化にしても色々なものが沢山あるので、発掘していく必要がある。</p> <p>また、今回の台風災害では情報が非常に少ないと感じた。香取市のエリアメールは頻繁に携帯に入ってくるが、<b>稲敷では音波の届かない防災無線で、情報がよく掴めない。避難場所についても、いっぱいで帰されてしまうと、その先どこに避難すればよいかわからない。明確にできるよう改善が必要では。</b></p>	<p>P. 59 第 1 章／政策 2 <b>楽しく学び続ける環境をつくりましょう！</b></p> <p>施策 3 地域文化の継承については、<b>次世代への継承に重点を置き</b>、子ども達が楽しく学べる環境づくりに取り組みます。</p> <p>P. 84 第 3 章／政策 1 <b>安心・安全を第一に環境をつくりましょう！</b></p> <p>市民の生命と財産を守るため、計画的な地域防災を推進し、<b>災害時における情報伝達の確保や災害時の有効な体制の強化</b>に取り組みます。</p>
9	委員	<p>総合計画の効果の検証等を伺い、やはり量より質を求めていく必要があるかと思う。<b>検証の結果と評価を、もう一度見直して、A とされているものはもういいのか、それとも、そぎ落とすべきものなのか、もう一度検証して、質を求めていくことを第 1 に考えていくことが大事</b>なのではないかと思う</p>	<p>P. 5 (4)策定方針について</p> <p>方針 2 これまでの総合計画の課題を踏まえ、新たに盛り込むべき施策の追加、現状に応じた見直しを進める等、<b>より効果的で質の高い計画の策定</b>を目指します。</p> <p>また、P3 図表にて<b>PDCAサイクルの進行管理</b>を記載。</p>
10	委員	<p>稲敷市を取り巻く状況の中で、人口減少が非常に大きな課題となっていて、平成 18 年の市内の事業所数は 1,988、平成 26 年で 1,788 となっており、この数年間で 200 程事業所が減っている。<b>市内の雇用対策関連には、事業所の発展、事業的発展というものが、市に大きく貢献すると思うので、商工会では、事業所の発展、事業のスムーズな承継、市の施策にある創業支援</b>に力を入れております。</p>	<p>P. 123 第 4 章／政策 2 <b>仕事づくり、賑わいづくりを進めましょう！</b></p> <p>施策 2 商業・工業・観光の振興は、今後のまちづくりにとって欠かせない要素として、中小企業の安定的経営は担い手育成、企業など、<b>新たな商業の展開、地元商業の維持、活性化</b>に取り組んでいきます。</p>
11	委員	<p>地域経済活性化プロジェクトの中で、特に持続可能な農業、次世代型の農業の推進という部分については、まだまだ手つかずのところがあるので、今後検討をいただきたい。GI 登録のカボチャ産地だが、高齢化、後継者不足で、現状では縮小しているのが現実。プロジェクトの中で、<b>新規の方々への指導を行い、産地の育成を目指し、投資をせずともできる手立てを検討し取組んでいただきたい</b>。また、大規模農</p>	<p>P. 19 <b>重点プロジェクト 1【地域づくりプロジェクト】</b></p> <p>重点プロジェクトの取組② 「農業の元気化と持続可能な農業、次世代型の農業の推進」として、担い手不足の解消、自然環境への配慮、新たな技術の導入等に取り組み、<b>次世代に継承していける元気な農業環境づくり</b>に取り組むとともに、P119「第 4 章わいわい快適に暮らすま</p>

No.	委員	発言要旨	対 応
		<p>家もてはやされる一方で、行政自らが、10～15haの家族農業でできる面積に重点を置いた育成の仕方を是非検討いただけきたい。</p> <p>その他シルバー人材の活用は非常に重要。現在はアルバイト情報など、スマートフォンを見れば即座に分かるという時代。人材を欲しがっている方に、市が間に入り、アルバイト情報などで人と人を結びつけるシステムを立ち上げる <b>AIの活用を、是非この次世代型農業の中にも組み入れていただきたい。</b></p>	<p>ちづくり」政策2 施策1に示す様々な取組を推進し、<b>新たな時代に対応した農業・水産業の振興</b>を図っていきます。</p>
12	委員	<p>区長という立場で、防災関係では、区長をあまりあてにしていないのですが、最終的には<b>区長の役割が必要になってきます。行政では、どのように準備し活用していくのか。</b>今回の台風では、避難場所や運用についても、非常に戸惑った。今後は区長会の活用について考えていただきたい。</p> <p>それから、<b>桜川地区運動公園が運動の拠点だったが、統合小学校ができるので、代替地などの計画についても、総合計画の中に入れていただきたい。</b></p>	<p>P.130 第5章／政策1 手をとりあって市民協働を進めましょう！</p> <p>施策1「みんなで取組む市民協働・コミュニティづくり」を推進し、地域におけるまちづくりの主役は市民であって地域コミュニティが重要な役割を果たせるよう、市民の生命と財産を守るために、<b>地域と行政が連携した災害に強いコミュニティづくり</b>に取り組みます。</p> <p>P.57 第1章／政策2 楽しく学び続ける環境をつくりましょう！</p> <p>施策2取組① 「生涯スポーツ・レクリエーションの推進」において、市民が心身共に健康で幸福を感じることが出来るまちづくりのため、<b>ソフト・ハードを含めた生涯スポーツの環境づくり</b>に取り組みます。</p>
13	委員	<p>台風15号、19号の災害では、避難所開設、避難民の誘導を限られた人材の中で、住民のために動くことを考えると、やはり、<b>自主防災組織を今後考えていかななくてはならないのかなと思う。市の協力を仰ぎ、住民に周知していくなど、ある程度時間はかかるものとは思いますが、取り組んでいかなければと感じる。</b></p>	<p>P.86 第3章／政策1 安心・安全を第一に環境をつくりましょう！</p> <p>施策1取組②「防災意識の向上」において、地域防災の充実に取り組み、目標指標として<b>自主防災組織数の上昇</b>を目指し取り組んでいきます。</p>
14	委員	<p>行革大綱の関連で、ボランティアの立場から言うと、<b>各課が連携を図り、効率的な計画を立てていくのが非常に重要だ</b>と感じました。例えば p28 のまちづくりプロジェクトでは、安心安全な地域づくりプロジェクトの中に社会福祉の分野が含まれます。この計画を作っていく時に、こういったことを踏まえて検討していただきたいと思いながら見ていました。それと、今私は年齢的に、断捨離に凝っているのですが、この稲敷市の将来を考えると、財政面が非常に厳しいと想像できます。今</p>	<p>P.34 重点プロジェクト7【行政発展プロジェクト】</p> <p>取組②「持続可能な行政改革」において、<b>柔軟性の高い組織機構の構築</b>、新たな時代に対応する財政基盤の構築など、持続可能な行政運営を目指した行政改革の推進に重点的に取り組めます。</p>

No.	委員	発言要旨	対 応
		<p>現在でもそうかもしれませんが。それを考える時に、色々な事業を、今までやってきたからそのまま継続していかなくてはいけないとか、流れでやってきたものだからどうしてもやめられないとか、色々と事情はあるのでしょうか、輝く未来を考えるとといった時に、<b>少子高齢化をありのまま受け止めて、その中でやめるとか捨てることも必要だ</b>と思います。</p>	
15	委員	<p>食生活改善推進協議会の会員も高齢化している。若手が1人で役員がきつくなっているが、今取り組んでいるのは、高齢者の居場所作り、シニアカフェに取組んでいる。今、世の中の方は、子育てだが、シニアのほうも考えていただきたい。年々年を重ねてシニア世代になると不安のほう大きい。<b>バス停に行くまでが遠いので、自宅まで小型バスが迎えに来てくれるというシステムがないと病院にも行けない。</b>そういった課題がいっぱいなので頑張っていたきたい。</p> <p>あと一言、和田公園に毎年チューリップを沢山植えているが、ひたち海浜公園のチューリップは素晴らしい。他所を見学しているのか。<b>感動を呼べる公園にしてほしい。</b></p>	<p>P.26 重点プロジェクト4【素敵なまちプロジェクト】 取組②、取組③ 公共交通については、今後移動手段を持たない高齢者が増加していくことが予測されるため、引き続き対策を推進していくことが必要です。子どもから高齢者までの市民の日常を支える<b>公共交通の充実に重点的に</b>取り組みます。また、和田公園については、市内外の人にとって快適な憩いの場となるよう、<b>にぎわいと活気の創出</b>に取り組みます。</p>
16	委員	<p><b>地域課題に対して、住民自身が当事者意識を持ち、その上で行政として地域住民の知恵や力を借りて、地域住民と一緒に問題を解決していくような時代になっている</b>と思う。行政は選択と集中で、効果が高いものに対しては積極的に投資しつつも、効果が低いものに対しては、そこは諦める潔さも大事だと思う。稲敷だと観光に力を入れても佐原や潮来、鹿嶋には負けるので、そこに重点的に投資しても仕方がないと思う。<b>地域住民の力を借りて、教育や福祉の課題を解決していくような総合計画になると良い</b>と思う。</p>	<p>P.31 重点プロジェクト6【地域づくりプロジェクト】 公民館を市民協働の拠点施設として位置付け、市民が主体的に取り組む地域づくりを支援し、<b>稲敷市らしい市民協働スタイル</b>を推進します。また、公民館に地区担当職員を配置し、地域の課題を共有しながら市民による課題解決を重点的に取り組んでいきます。</p>
17	委員	<p>稲敷で子育てをすれば、優しく良い子に育つとは思っています。私は、都会で子育てをし、経済観念がしっかりしていて、自分で稼いでいけるような子になってほしいと思っている。もし、都会にも増して<b>魅力的な子育てをできる環境があるのであれば、市民にその情報は届いていないので、それを発信できるような環境を整えて</b>いただきたい。</p> <p>また、若い女性をはじめ、若い方々が働き、出会い、結婚して、出産し、育児をするライフステージを稲敷でということだが、私はこれをイメージできない。<b>出来ないことは切り捨てて、余ったリソースを高齢者分野に充てるとか、そういう感じでまちづくりを進めていくと良い</b>と思う。</p>	<p>P.23 重点プロジェクト3【子育て応援プロジェクト】 子育て世帯が、本市で安心して子ども産み育てられる環境づくりを進め、市民が幸福感や満足感の高い生活ができるよう、経済的負担の軽減や教育・保育環境の充実、地域全体でサポートできるしくみなど、<b>妊娠・出産・子育てへの切れ目ない支援を重点的に</b>取り組んでいきます。</p>

No.	委員	発言要旨	対 応
18	委員	<p>私は病院で働いているのですが、高齢者の方で、お一人で来ている方に、どうやって来られたのか聞くと、バスではなくタクシーと答える方が多いです。では次はいつに来てくださいと言うと、タクシーで来るしかないのもう少し伸ばせないですか、という声を多く伺う。私もあと 30 年、40 年経った時に、自分はどのようなのかな、と想像しながら住む所を探すと思うと、<b>高齢者に対するケアも大事</b>なのかなと思う。</p> <p>また、私は先日の台風の際に避難させてもらったが、その時消防団の方が、嵐の中、自分の職業でもないのに出ていく姿を見て感動した。そういう、知らないけれど素敵なところが見つかったらいいと思う。</p>	<p>P. 26 重点プロジェクト 4【素敵なまちプロジェクト】</p> <p>取組② 公共交通については、今後移動手段を持たない高齢者が増加していくことが予測されるため、<b>ワゴン車交通の導入</b>や、路線バス・コミュニティバスの再編見直し、タクシー利用券等の充実など、ニーズに対応した公共交通環境の整備を継続して重点的に取り組んでいきます。</p>
19	委員	<p>私の子どもが高校生になりますが、子育てをしていて、交通の便が悪く非常にネックとなっていました。自分自身も忙しいので送迎などに時間を割けない場合もあるので、<b>公共交通を見直していただきたい</b>と思いました。</p> <p>また、外国人の方が最近増えていると思います。例えば、市民協働とか、<b>地域づくり</b>という中に、<b>外国から来た方々</b>というのは入っているのでしょうか。この間の災害の時など、そういう時に、地域の連携というのがどんな形になっているのかと考えた時に、外国人の方々はどういう扱いになっているのかと考えたところです。</p> <p>あとは、<b>避難指示の際に、学校を中心とした繋がりというのが最も強い</b>と思いましたので、子ども会などの活用ができないかと思いました。<b>子ども会と、地区の区長さんと、PTA や消防団など、そういう横の繋がり</b>です。学校評議員さんなどもいるので、その辺りの繋がりが強くなって、そういう時に連絡網ではないが、そういった役割を担ってくれるようなものが作れると良いのではないかと思います。</p>	<p>P. 26 重点プロジェクト 4【素敵なまちプロジェクト】</p> <p>取組② 公共交通については、今後移動手段を持たない高齢者が増加していくことが予測されるため、ワゴン車交通の導入や、<b>路線バス・コミュニティバスの再編見直し</b>、タクシー利用券等の充実など、ニーズに対応した公共交通環境の整備を継続して重点的に取り組んでいきます。</p> <p>P. 133 第 5 章／政策 1 手をとりあって市民協働を進めましょう！</p> <p>施策 2 外国人も同じ稲敷市民として、すべての人が尊重される<b>暮らしやすいまちづくり</b>を目指します。</p> <p>P. 84 第 3 章／政策 1 <b>安心・安全を第一に環境をつくりましょう！</b></p> <p>市民一人ひとりの安全・安心を確保するため、コミュニティ、学校など様々な組織が連携し、<b>災害時における有効な体制づくり</b>に努めます。</p>